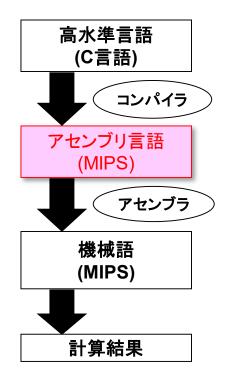
2018年度 計算機システム(演習) 第3回 2017.12.14

遠藤 敏夫(学術国際情報センター/数理・計算科学系 教授) 野村 哲弘(学術国際情報センター/数理・計算科学系 助教)



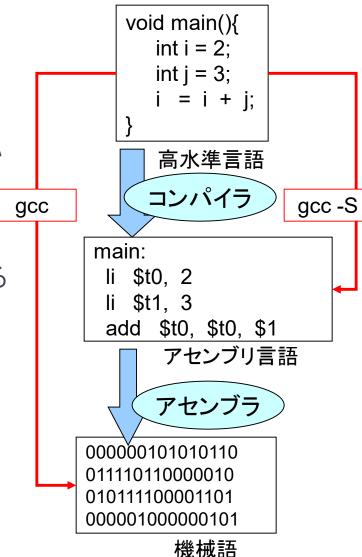
今日の内容

アセンブラ命令、配列の操作方法

アセンブリ言語 (MIPS)

プログラム実行までの流れ

- プログラムが実行されるまで
 - コンパイラ、アセンブラ、実行ファイル
 - ▶ プロセッサが処理可能な形式まで変換する必要
- ▶ 高水準(高級)言語 ←前回までの内容
 - ▶ 自然言語に近い構文であり、人間が記述しやすい
 - ▶ Java, cなど
- ▶ アセンブリ言語(低級言語) ←次の内容
 - > コンピュータ用に2進数で符号化した命令である機械語(machine language)を、記号(シンボル)表記したものである.
 - ▶ 機械語を人間が理解できるように記述
- ▶ 機械語
 - ▶ CPUが直接理解できる言語
 - 0,1であらわされる命令の集まり
 - 命令セット



MIPSアーキテクチャ

▶ Microprocessor without Interlocked Pipeline Stages

m1.s

- Hello World プログラム
 - "HelloWorld" という文字 列を画面に表示

Hello World プログラム

• MIPSは2つのセグメントから成る

.data

str:

.asciiz "HelloWorld¥n"

.text

main:

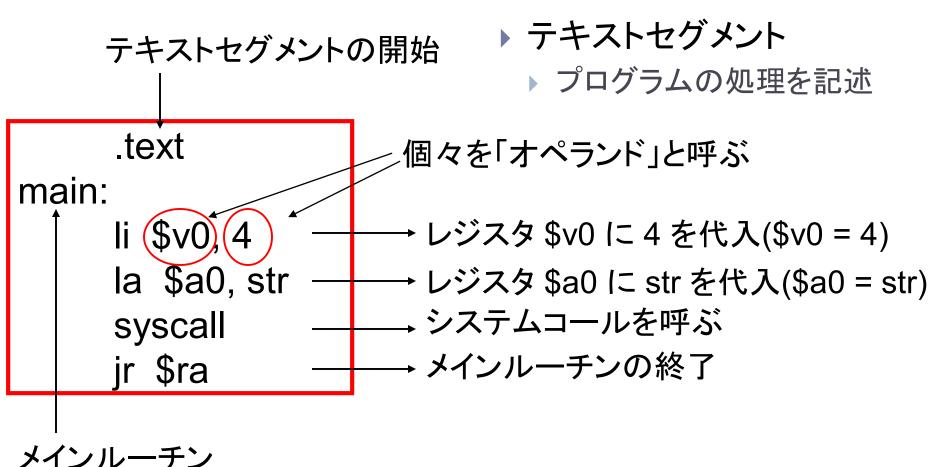
li \$v0, 4 la \$a0, str syscall ir \$ra

- データセグメント
 - ▶ .data 以下
 - ▶ データ部分
- コードセグメント
 - ▶ .text 以下
 - ▶ 命令列

データセグメント



テキストセグメント



メインルーチン を表すラベル

ロード命令

.text main: li \$v0, 4 la \$a0, str syscall jr \$ra

▶ li レジスタ, 数値

- load immediate
- ▶ 数値をレジスタに代入
- ▶ 例: li \$v0,4
- ▶ la レジスタ,ラベル
 - load address
 - ラベルの指すアドレスをレジスタに 代入
 - ▶ 例: la \$a0, str

使用できるレジスタ

- ▶ レジスタ: CPU内部に存在し値を保持する少量で高速な記憶素子
 - ▶ CPUはレジスタに対して計算を行う

Name	Register number	Usage
\$zero	0	the constant value 0
\$v0-\$v1	2-3	values for results and expression evaluation
\$a0-\$a3	4-7	arguments
\$t0-\$t7	8-15	temporaries
\$s0-\$s7	16-23	saved
\$t8-\$t9	24-25	more temporaries
\$gp	28	global pointer
\$sp	29	stack pointer
\$fp	30	frame pointer
\$ra	31	return address

syscall 命令

.text main: li \$v0, 4 la \$a0, str syscall jr \$ra

システムコールを呼ぶ

- ▶ OS が提供するサービス
 - 入出力など
- 一種のサブルーチン

▶ 使い方

- ▶ レジスタ \$v0 にサービス番号を設定
 - ▶ 例) \$v0=4: 文字列表示
- ▶ レジスタ \$a0 等に引数を設定
- ▶ syscall 命令を実行
- ▶ (戻り値があれば)レジスタ \$v0 に入る

syscall サービス

サービス	番号 (\$v0)	引数	返り値	意味
print_int	1	\$a0(整数)		整数値を表示
print_string	4	\$a0(文字列のアドレ ス)		文字列を表示
read_int	5		\$v0(整数)	整数値を読込む
read_string	8	\$a0(バッファ) \$a1(長さ)		文字列を読込む
sbrk	9	\$a0(メモリサイズ)	\$v0(アドレス)	メモリを割り当て
exit	10			プログラム終了

syscall 使用例

- ▶整数値の出力
 - ▶ 例:128を出力
- > 整数値の入力
 - ▶ \$v0 に入力値が入る
- 文字列の出力
 - ▶ \$a0に代入された文字列を表示

li \$v0, 1 li \$a0, 128 syscall

li \$v0, 5 syscall

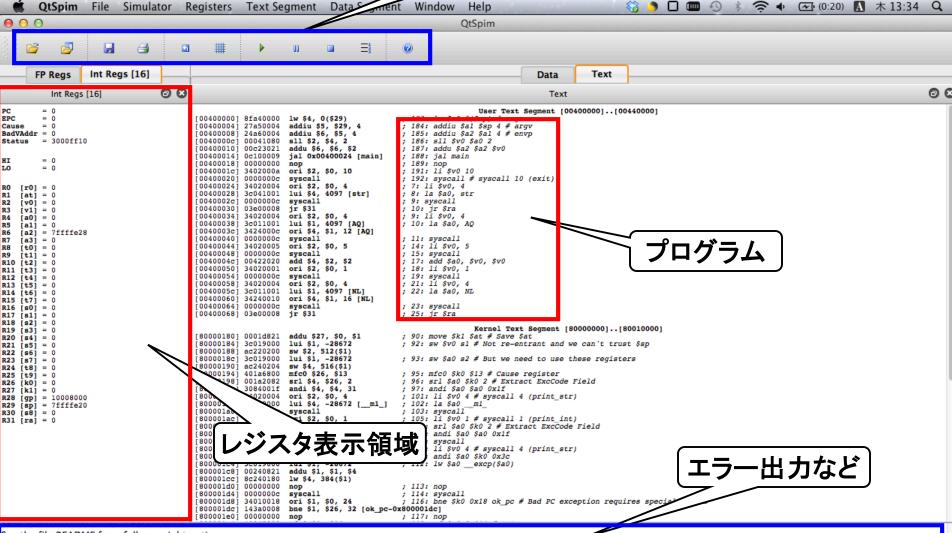
li \$v0, 4 li \$a0, str syscall

SPIM

- MIPSシミュレータ
 - http://spimsimulator.sourceforge.net/
 - ▶ Windows, Mac OS X, Linux 版
- インストール & 利用方法
 - ▶ 選択肢 I: 西7の Mac
 - ▶ App フォルダに QtSpim がインストールされている
 - ▶ 選択肢 2: 自宅 PC
 - https://sourceforge.net/projects/spimsimulator/files/
 - ▶ QtSpim_(version)_(os).(ext) をダウンロード
 - □ QtSpim_9.1.20_Windows.msi など
 - 展開もしくはインストーラを実行

基本的に西7のMacを用いる。選択肢2は、家や自分のラップトップで 課題をやりたい学生向け **QtSpim**

制御ボタン



See the file README for a full copyright notice.

spim: (parser) Label is defined for the second time on line 8 of file /Users/shirahata/Documents/ææ¥/å¦é¨å°éç§ç®/è¨ç®æ©ã·ã¹ãã /2012/MIPS/m2.s main:

Hello World (1/3)

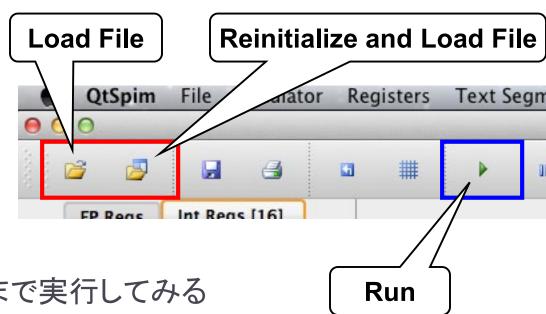
- ▶ Hello World プログラムを作成
 - ト ファイル名: hello.s

```
.data
str:
.asciiz "HelloWorld¥n"

.text
main:
li $v0, 4
la $a0, str
syscall
jr $ra
```

Hello World (2/3)

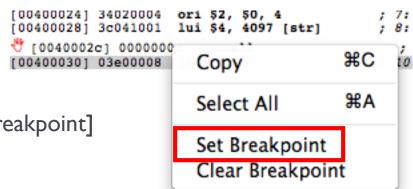
- ▶ hello.s プログラムの読み込み
 - ▶ 起動後、[Load File] または [Reinitialize and Load File]
 - プログラムを選択



- ▶ hello.s の実行
 - プログラムを最後まで実行してみる
 - ▶ [Run] ボタン

Hello World (3/3)

- プログラムを修正した場合
 - ▶ [Reinitialize and Load File] → 初期化してファイルを読み込み
- プログラムのステップ実行
 - 1命令ずつ実行する
 - プログラムの読み込み後
 - ▶ [Single Step] ボタン → [Single Step] ボタンを繰り返しクリック
- ブレークポイントを設定
 - ▶ 実行中に停止させたい位置を指定する
 - ▶ 指定したい行の上で右クリック → [Set Breakpoint]



Single Step

興味があれば、その他のボタンの挙動を調査

加減算

- add \$A, \$B, \$C
 - ▶ \$A <- \$B + \$C
- ▶ addi \$A,\$B,数值
 - ▶ 即値可算(add immediate)
 - ▶レジスタが示す値に定数を加算
 - ▶ \$A <- \$B + 数值
- sub \$A, \$B, \$C
 - ▶ \$A <- \$B \$C
- ▶ subiは無い
 - ▶ addiで数値に負の値を指定

```
add $t0, $t1, $t2
addi $t0, $t1, 4
sub $t0, $t1, $t2
addi $t0, $t1, -16
```

加減算

.data

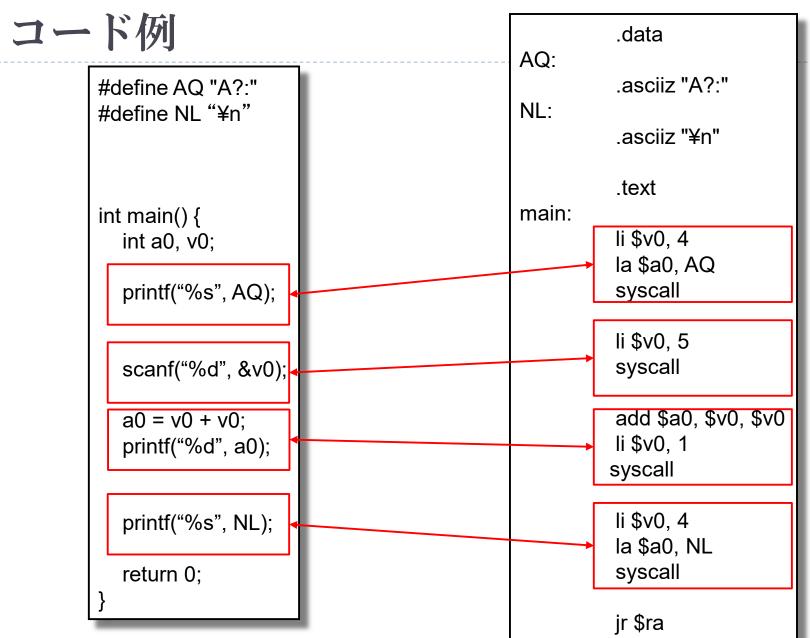
```
.text
main:
      li $t0, 1
      li $t1, 2
      add $t0, $t0, $t1
      li $v0, 1
      move $a0, $t0
      syscall
      jr $ra
```

レジスタ \$t0 の値を\$a0に コピー

コード例

右のアセンブリプログラムは どのような処理を行うプログ ラムか?

.data AQ: .asciiz "A?:" NL: asciiz "¥n" .text main: li \$v0, 4 la \$a0, AQ syscall li \$v0, 5 syscall add \$a0, \$v0, \$v0 li \$v0, 1 syscall li \$v0, 4 la \$a0, NL syscall jr \$ra



よく使う命令

- ト 分岐命令 (ジャンプ命令)
 - ▶ j, jr
- 条件分岐命令
 - beq, bne, blt, ble, bgt, bge
- ▶比較命令
 - slt, slti

分岐命令(1/2)

- j label
 - ラベルの命令へジャンプ

```
j next
```

•

next:

•

m3.s

.data J: .asciiz "Jump¥n" NJ: .asciiz "Not Jump¥n" .text main: j jump li \$v0, 4 la \$a0, NJ syscall ※ labelの有無 jr \$ra に関係なく、 jump命令が呼び 出されるまで、 jump: の命令が実行さ れ続ける li \$v0, 4 Ia \$a0, J syscall jr \$ra

Jump

分岐命令(2/2)

- ▶ jr \$A
 - レジスタ \$A の値の指す アドレスにジャンプ
 - ▶ 例: jr \$ra

```
la $t0, next
jr $t0
:
```

next:

```
.data
J:
          .asciiz "Jump¥n"
NJ:
          .asciiz "Not Jump¥n"
          .text
main:
          la $t0, jump
          jr $t0
          li $v0, 4
          la $a0, NJ
          syscall
          jr $ra
jump:
          li $v0, 4
          la $a0, J
          syscall
          jr $ra
```

Jump

条件分岐命令

- beq \$A, \$B, label
 - branch on equal
 - ▶ \$A == \$B ならラベルにジャンプ
- bne \$A, \$B, label
 - branch on not equal
 - ▶ \$A != \$B ならラベルにジャンプ

```
beq $t0, $t1, Label
    :
Label:
    :
```

if 文の実現

```
if (x != 0)
    y = 1;
else
    y = 2;
```

```
bne $t0, $zero, then # if (x!=0) goto then
li $t1, 2 # y=2
j end
then:
li $t1, 1 # y=1
end:
```

(\$t0にx, \$t1にyが該当する)

while 文の実現

```
while (true) {
while (x != y)  {
                            if (x==y) break;
    y++;
                            y++;
  while:
       beq $t0, $t1, end #if(x==y) goto end
       addi $t1, $t1, 1 # y++
            while
  end:
```

(\$t0にx, \$t1にyが該当する)

比較命令

- ▶ slt \$A, \$B, \$C
 - > set less than
 - ▶ \$B < \$C なら \$A = 1; そうでなければ \$A = 0
- ▶ slti \$A, \$B, 数值
 - set less than immediate
 - ▶ \$B < 数値 なら \$A = I; そうでなければ \$A = 0

その他の条件分岐命令

blt \$A, \$B, label	\$A < \$B なら分岐
ble \$A, \$B, label	\$A <= \$B なら分岐
bgt \$A, \$B, label	\$A > \$B なら分岐
bge \$A, \$B, label	\$A >= \$B なら分岐

(less than, less than equal, greater than, greater than equal)

▶ これらは疑似命令

- ▶ slt, beq, bne の組み合わせで実現できる (⇒課題)
- ▶ 「move \$A, \$B」も擬似命令
 - ▶ add A, B, \$zero

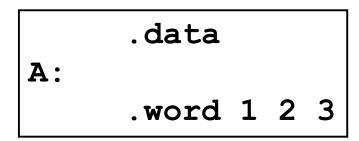
その他の命令

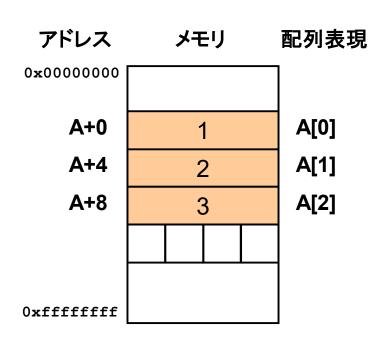
▶ http://www.cs.wisc.edu/~larus/HP_AppA.pdf の A.10 (A-51) 以降にその他の命令が載っている

配列

▶ ワードの配列

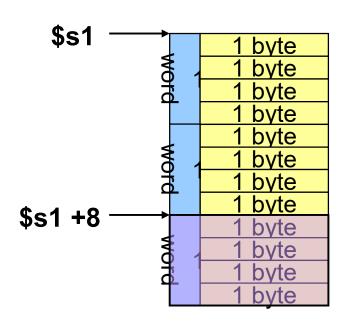
- word でワード (4 byte)の数値を 定義できる
 - ▶ MIPSでは、I ワード(語) = 4バイト = 32ビット
 □ バイト = 8ビット
- 要素 A[i] にはアドレス A+i*4 が対応
 - ワード単位でデータは格納されるが、アドレッシングはバイト単位で表現





メモリアクセス命令

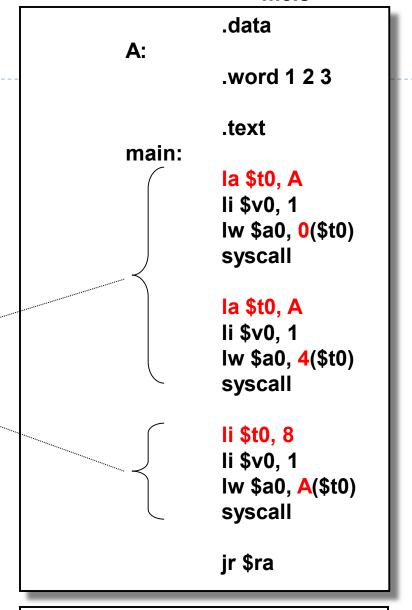
- Iw \$A, X(\$B)
 - ▶ \$A = メモリ[X + \$B]
 - ▶ \$A,\$B:レジスタ、X:定数 (ラベルor数字)
 - メモリ上のアドレス「X+\$B」から始まる Iワード(4バイト)のデータを レジスタ\$Aに転送する
 - ▶ 例: lw \$t0,8(\$s1)
 - ▶ \$sIが示すアドレスから2ワード 先のデータ(Iワード分)を\$t0に読込む
- sw \$A, X(\$B)
 - ▶ メモリ[X+\$B] = \$A
 - ▶ \$A,\$B:レジスタ、X:定数 (ラベルor数字)
 - ▶ レジスタ\$Aの値 (Iワード)を メモリ上のアドレス「X+\$B」に転送する
 - ▶ 例:sw \$t0,8(\$sI)
 - ▶ \$sIが示すアドレスから2ワード先のデータ(Iワード分)に\$t0の値を書き込む



配列の操作 (例)

▶ 配列Aの値を表示する プログラム

どちらでもよい



123

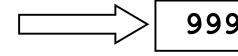
本日の課題

課題1:bltの実装

- ▶ sltを用いてblt (branch if less than) を実装せよ
 - ▶ 「blt \$s1,\$s2, label」を対象に、一時レジスタとして\$t0を使う
 - ▶ bltを実装したコード断片をレポートに記述し、その解説をすること
 - 注意点
 - 短いコードで記述されたもの程よい。
- ▶ オプション課題 (課題 I-2)
 - ▶ sltを用いて ble (branch if less than or equal)を実装せよ

課題2:2つの配列の要素の和

- ▶ これら2つの配列の i 番目と 3-i 番目の要素どうしを足し合わせ、表示せよ
- ▶ .wordとして、2つの配列を定義
 - $A = \{ 1, 2, 3, 4 \}$
 - $B = \{ 5, 6, 7, 8 \}$
- 注意点
 - A[0] + B[3], A[1] + B[2], A[2] + B[1], A[3] + B[0]
 - ループ処理で実装すること
 - ▶ syscallを使ってコンソールに表示すること



- ▶ オプション課題 (課題2-2)
 - 任意長の配列で同様の動作を実現するプログラムを書け
 - ▶ 配列長の与え方は各自で定義すること

補足

課題2

.data

A:

.word 1234

B:

.word 5678

.text

main:

#和を表示

アセンブリプログラムの 書き方の補足(1/2)

- ▶ 意味の切れ目で改行を入れる
 - ▶ SPIM は空行を無視する
- コメントを書く
 - # 以降はコメントになる

```
li $v0, 5
syscall

move $a0, $v0
li $v0, 1
syscall
```

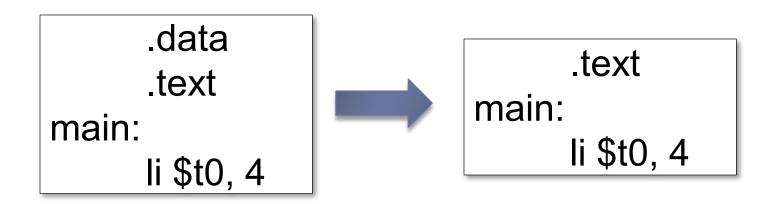
```
# println "HelloWorld"
li $v0, 4
la $a0, str
syscall # print_string
```

アセンブリプログラムの書き方の補足(2/2)

- ▶ 行頭のスペースは無くてもよい
 - あるほうがプログラムが見やすくなる
 - ▶ 命令中には適切にスペースを入れる必要がある(数は任意)



データが無いときはデータセグメントの記述は省略できる



課題提出

- ▶ 〆切:2018/01/08 (火) 23:59
 - ▶ OCW-iから提出すること
 - ▶ 遅れても(減点しますが)受け付けます。
- ▶ 提出物:以下のファイルを圧縮したもの
 - ドキュメント (pdf, txt 形式)
 - ト各課題の実行結果
 - プログラムソースの簡単な説明、グラフ、工夫したところ
 - プログラムの実行結果
 - ▶ 感想、質問等
 - プログラムソース
 - ▶ テスト用のmain関数も含む(課題1, 1-2)
 - 全てのファイル名は半角英数字でお願いします
 - 文字化け防止のため

課題締め切り

- ▶ 第01回
 - ▶ 12/14 (金) 本日 日本時間 23:59 まで
 - ▶ 遅れても減点しますが受け付けます
- ▶ 第02回
 - ▶ 12/21 (金)
- ▶ 第03回
 - ▶ 1/8 (火)
- ▶ 第04回
 - ▶ 1/8 (火)

TSUBAME3.0 見学会

見学の流れ

- ▶ TSUBAME3.0に関するビデオの視聴 @ W621
 - ▶ https://www.gsic.titech.ac.jp/node/965 (専門家向け,英語)
- ▶ W7計算機室に移動
- ▶ グループA(学籍番号下I桁が偶数)見学
- ▶ グループB(学籍番号下I桁が奇数)見学
 - TSUBAME 3.0
 - ▶ TSUBAME-KFC (希望者, 同時に入れる人数が限られる)